

★プロフィール★

1972年山口県生まれ。大学生のころ線虫の
においの好ききらいが生み出されるしくみに
興味を持つ。現在は株式会社HIROTSU
バイオサイエンス社長。線虫によるがん検
査「N-NOSE」の実用化をはじめとする、
病気診断技術の研究開発をしている。



©HIROTSU BIO SCIENCE

体長約1ミリメートルの線虫の拡大写真。線虫は、科学的な研
究の実験用の生物として世界中で使われている。

一方で、わたしは「変わり者」だと言われます。いつも、人とはちがうことを考えているからかもしれません。これは、性格の面では短所かもしれませんが、仕事では大変役に立っているので、わたしは、自分の大事な個性の一部だと思っています。

たとえば、わたしはもともと、大学の研究で、線虫をあつかっていました。

線虫を使ったがん検診で早期発見をめざしたい

日本人の死因でもっとも多いのは、男女ともに「がん」という病気です。わたしはいま、線虫という小さな生物を使って、がんかどうかを調べるがん検診の実用化をめざしています。

ある種類の線虫は、がんにかかっている

いる人の尿のにおいを好み、健康な人の尿のにおいをきらい性質があるので、尿を一滴取って、線虫が近づくか、遠ざかるかを見るだけで、がんかどうか調べられるのです。

これまでのがん検診は、費用が高く、体への負担もありました。でも、線虫を使った検査なら、安くて手軽にできる

ので、より多くの人が受けられるよ

「変わり者の武器は 人一倍の好奇心」

わたしは、幼いころから、いろいろなことに興味がありました。星座や百人一首をすべて覚えたり、野球も好きで、少年野球ではピッチャーをやったりもしました。好奇心が強い、これはわたしの長所だと思っています。

好奇心が強いと、よいことがあります。ふだんからいろいろな経験を積めるので、何か新しいことに立ち向かうときでも、ひるむことなく自信を持って判断し、まわりの人とはちがう独自の発想ができるのです。

理学博士

ひろ っ たか あき
広津崇亮さん



長所 好奇心が強い、前向き

短所 変わり者

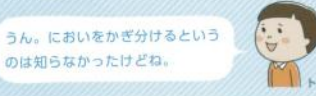
うになり、がんの早期発見、早期の治療が可能になるはずですが、

好奇心の強さが生んだ人にはできない独自の発想

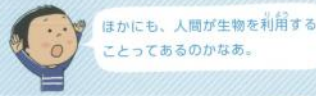
話してハッケン!



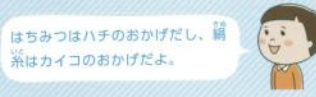
線虫って知ってた? ぼくは知らなかった。



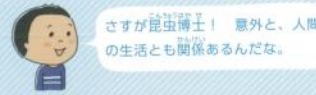
うん。においをかぎ分けるといのは知らなかったけど。



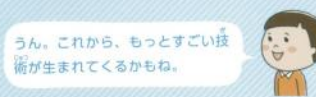
ほかに、人間が生物を利用することってあるのかなあ。



はちみつはハチのおかげだし、絹糸はカイコのおかげだよ。



さすが昆虫博士! 意外と、人間の生活とも関係あるんだな。



うん。これから、もっとすごい技術が生まれてくるかもね。

ひろつ 広津さんから みなさんへ



きみは、個性的と言われることがあるかな。それがもし「変わり者」という意味だったとしても大丈夫。わたしもそうだから。少しくらいはみ出ていてもいいんだよ。あとは、はみ出たところをみんなに理解してもらえばいいだけ。いまは好奇心を持って、いろいろなことにチャレンジしてみよう。

前向きに取り組むことで 協力者を増やす

わたしは、前向きであることも、自分の長所だと思っています。線虫を使ったがん検診を、わたしは日本中に広めようとしています。でもこれは、一人でできることではありません。新しい発想の実現には、これまでになかったしくみも、つくらなくてはいけないからです。それには、国や病院、自治体などの協力が必要です。わたしは、自分の独自の発想を、工夫しながらみなさんに伝え、共感して

ただ、わたしは、自分自身に言い聞かせていることもあります。それは、「常識を疑うことは大事だけれど、疑えばいいものではない」ということです。独自の発想をするのはよいことですが、まわりの理解を得られなければ、それは単なる一人よがりではありません。

「おもしろいことを思いつくと、それをうまく説明してまわりに共感してもらおう」とは、同じくらい大事なことです。新しい発想を、みんなにどう伝えたら受け入れてもらえるのか、わたしはいつも考えるようにしています。

くれる人や、協力してくれる人を増やす努力をしています。うまくいかないときは、発想を変えてやってみる。自分の思いが伝わり、協力関係が築けると、大きな喜びを感じます。

仕事は、お金を得るためにするものですが、それだけではありません。自分が社会の役に立つことで、やりがいや生きがいを感じるものでもあるのです。

線虫の持つ可能性で みんなの健康を支えたい

わたしの会社では、現在さらなる研究を進めています。それは、体のどこ

ががんにかかっているのかまでを、線虫に見分けさせる研究です。また、将来は、世界中の人に受けてもらえる検査になるよう、オーストラリアでも研究を進めています。今後は、アメリカやヨーロッパへも広げる予定です。

楽しい人生を送るための基本は、まず健康であることです。だからわたしは、多くの人の健康を願っています。そして、がんに限らず、たとえ病気になっても、早期に発見できる技術を開発し、そうした検査が手軽に受けられる社会をつくっていきたく強く思っています。

他人から見ると!?

永満はるかさん (広津さんの会社の社員)

広津さんは、つねに前向きな人です。消極的なことはありません。用心に用心を重ねて行動することを「石橋をたたいてわたる」と言いますが、広津さんは、「石橋をたたいてどんな橋でもわたる」という性格の持ち主です。進むべき橋ならば、下調べを十分にして、たとえ難しい橋だとしても「引き返す」という選択肢は持たずにわたります。型にはまらず、自分の力で世界を切り開くタイプです。



「何もないところから何かを見出すことが好き」と語る広津さん。

一人よがりではない 周囲の理解は得られない

一般的に、「研究」というのは、すでに見出されていることを発展させてい深めたりすることが多く、それはとても大事なことです。でもわたしは、何もないところから何かを見出すのが好き。そのほうが、自分の個性に合っていると思うからです。

線虫を使ったがん検診は、世界初の考えでした。線虫を使って研究することはあっても、線虫の行動を利用する発想は、それまでなかったのです。